



北越戊辰戦争伝承館館長 清水憲夫

「長岡市北越戊辰戦争伝承館」に勤務して

会報
峠
とうげ

河井継之助記念館
友の会会報

第32号

2023.1

〈編集・発行〉

河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1
〒940-0063
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価：50円（送料別）

〈編集人〉

荒木法子 恩田富太
白石恒夫 中野武夫

友の会事務局

〈構成・印刷〉
高速印刷株式会社

長岡市の北のはずれの八丁沖を含む新組地域は、幕末期長岡藩北組に属し、戊辰戦争では、六〇七月末の約二ヶ月にわたり激しい戦闘の地となった。

二〇一二年、大黒農村公園の一角に農民目線で戦争を後世に語り継ぐ「北越戊辰戦争伝承館」が建設された。これは地元の市会議員、コミュニティ、有志の皆さんから郷土史家等々の熱い思いによるもので、伝承館を側面からサポートする運営協議会も結成されている。さらにその根底にあるのは地元の教育者、有識者等約四〇名の皆さんがその編纂に関わり二〇〇三年に発行された『新組郷土誌』の存在である。

私は福井町に生まれ、大学時代他一時期を除いてずっと当地に住んでいながら、戊辰戦争のことは親からも、中学時代でも、教わった記憶がない。長岡グランドホテルに三十八年間勤務し、稲川明雄前館長の講演を数回耳にした以外、歴史とは無縁の世界で売上至上主義の生活に終始した。

そんな歴史に疎い私が何故か新組地域出身ということで伝承館に採用された。当館前館長の安藤一彌さんや運営協議会の皆様方の温かいご指導に報いるべく、私は『新組郷土誌』から高校日本史、そして稲川明雄をはじめ司馬遼太郎、松本健一、星亮一、安藤英男等々の書物を読

み漁った。

また稲川前館長からは、八丁沖ウォークの際、新組地域での戊辰戦争の一端を教えていただいた。

川辺町の吉川さんに古文書の借用に行かれた時のこと、福井西照寺の先々代住職皆川純司さんのこと、また米沢藩兵のことやガトリング砲二門のことなど……。生涯を通じて継之助を愛し、研究されてきた稲川明雄前館長ならではの優しい眼ざしと口調で。

二〇二二年六月十七日、三度の延期の末に公開された「峠 最後のサムライ」。映画公開により、八丁沖渡河作戦の舞台となった地域に建つ当館に県内外から多くの見学者が訪れている。

同じ長岡人として時代の節目に忽然と現れた稀有の人間、河井継之助の実像をもっともっと勉強して、多くの河井ファンや歴史ファンにお伝えしていけたらと思う。

今、世界は大変動期を迎えている。地球温暖化や災害、エネルギー、食糧問題から新型コロナウイルス感染症そしてロシアによるウクライナ侵攻。もし河井ならこれらにどう立ち向かうのだろうか。

プロフィール

昭和二十七年（一九五二）四月十日長岡市生まれ
（株）サッポロビール、長岡グランドホテルを定年退職後、地元の伝承館に勤務。
令和四年十二月より民生委員。